らしんばん
RASHINBAN
No. 700
2019年7月15日
ボーイスカウト東京連盟山手地区目黒１団・機関誌
発　行：目黒1団・団委員長　高 根 博 信
団本部：目黒区中目黒5-24-53 祐天寺内
http://www.bs-meguro1.com/

創刊第700号

船の航路になくてはならぬ「らしんばん」ーーこのらしんばんをたよりに　ボーイスカウトの運動をみんなの手で進めて行きたいと思います。

これは、らしんばん創刊号に登載された発行にあたっての決意表明です。
お蔭様でなんとか難破もせずに７００号を迎えることが出来ました。
目黒１団はこれからも荒波の中を進んでいくことでしょう。
皆の協力で乗り切っていきたいものです！！

“すごいぞ７００号”

「らしんばん初代編集長」
渋谷6団名誉育成会長　　大野福三郎

700号　いや驚きです・田邉副団委員長より原稿依頼の電話があり、うれしいやらびっくりするやら。先ずはおめでとうございます。ここまで続けてくださった歴代団委員長、編集長（たずさわった方々）にお礼申し上げます。

らしんばん創刊時に記された初代団委員長小城基先生のことばを紹介します。

「本年は日本ジャンボリーが開催され、世界ジャンボリーも初めて東洋（フィリピン）で行われる時　スカウト躍進の時であると同時に本団も陣容益々強固になり、内容的に充実できる年であると思う。狭き門といわれる海外派遣のスカウトが本団より初めて出てきたことは、誠に力強い。芸術家である私が委員長として既に9年間　本団のスカウト並びにスカウト出身指導者に芸術的才能がある者が出てこないことはいつも淋しい気持でいたが最近やっとその気運が動き、新年早々団報発行が企画実現する。各隊リーダーより編集委員長を互選して、2月1日（昭和34年　1959年）を期し発行すべく私のアトリエは編集局と化してしまった。絵も描けない状態となったが、一面嬉しい気持で何かと便宜を与えている。三号雑誌になるか否か、リーダースピリットが克服していくかどうか、団関係者はその労をねぎらいつつ将来を楽しみにしている。」

毎号田邉副団委員長が送ってくださる　らしんばん　を楽しみに読ませて頂き、小城先生の言葉に充分こたえていることを誇りに思っている。毎号高根団委員長のメッセージは、正にその証明であり、目黒第1団繁栄のあかしでもあります。この「らしんばん」を待ちこがれている私はじめ読者に更なる喜びを与えてくださることを心より願っています。

らしんばん700号弥栄！

「団委員長メッセージ」

団委員長　高橋博信

らしんばん 700 号発行おめでとうございます！

先ずはらしんばんを継承して下さった OB の皆さま、毎月らしんばんへの活動報告を提出してくださっている隊長の皆さん、原稿をまとめ編集・発行をしてくださっている井澤さんに感謝を申し上げます。

「700 号」は頭が下がる数字です。昭和 47 年新刊されたあの“暮らしの手帖”に匹敵しますね！

終戦が昭和 20 年、その 5 年後の 25 年に一団が産声を挙げました。戦後の日本の成長と共に生き抜いてきた一団だったと感じます。

スカウトの皆さんや多くのリーダーは平成生まれですから、昭和というと歴史の中の時代と感じている方も多いと思います。

では一団が誕生した 1950 年とは？時代背景を少し覗いてみましょう

- 1,000 円札発行（聖徳太子）
- プロ野球　初の日本シリーズ（ナイターが始まる）
- 女性の平均寿命が 60 歳を超える（2018 年　87.26 歳）
- 衣料切符制度廃止（昔は服の配給制度があり衣料切符とお金がないと服は買えなかった）

政治的な事柄から見ると、吉田首相の時代、マッカーサーが警察予備軍や海上保安官を増員、君が代の演奏が許可、朝鮮戦争が始まるなどまだまだ戦争の色合いが濃い時代でした。

物事は表裏一体ですから、戦争で多くのものを失った日本が未来に向けて立ち上がっていった活気のある時代だったと思います。

ボーイスカウト活動は、将来世のためになる青少年を育てるのが目的です。

世の中のためになる青少年とは？　立派な大人とは？　と考えるととても難しいので、人の価値感により変わるもの偏見も含め（例えば国籍、肌の色、学歴、お金、地位や職業）除外し考えてみることにしました。

すると、世の中に役に立つとは⇒まずは自分に役に立つ「世の中⇒自分」と一体となり、社会の成長と人の成長が同一線にあると感じました。

ボーイスカウト目黒一団は来たる 2020 年東京オリンピックイヤーの来年 3 月に 70 周年を迎えます。オリンピック同様、ボーイスカウト活動を牽引している私たちも時代や主観に流されず軸となるものを見据え、これからも活動を継続していける青少年育成の組織であって欲しいと強く願います。

ボーイスカウト目黒１団の誇り

副団委員長　田邉建一朗

らしんばんという目黒１団の機関誌が７００号を迎えた。単純に計算して約６０年の長きに渡り毎月発行されている。これは一口に言ってものすごいことなのだ。ボーイスカウト目黒１団即ち旧東京２９団以来バトンリレーされて今日まで続いていることに、団の関係者として誇りに思うものであります。おそらく日本のボーイスカウトの他団にこれだけ古くから継続されている機関誌は聞いたことがありません。

「らしんばん」は目黒１団の歴史そのものです、何とか綺麗な形で残せないかと思ったりもしています。その歴史をたどれば、初代団委員長の小城基先生が毎月この「らしんばん」に巻頭言として必ず執筆された文章記録が先生が亡くなった（昭和４５年）後しばらくした昭和５８年に一冊の本として｛「小城語録」らしんばん巻頭言抄｝当時のＯＢの方々が纏めて出していただきました。

私も学生時代そして団委員長時代に編集に携わった経験から、毎月原稿を集めるのに苦労した思い出があります。

歴代の編集長並びに編集にご協力いただいた方々に感謝すると同時に、現在の「らしんばん」の編集を長期にわたり纏めて頂いている団委員の井澤清明さんのおかげで７００号まで続いたことを皆様と一緒に御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

700号発行にあたり

らしんばんは昭和２９年創刊以来綿々と引き継がれてきました。このため先人のご苦労に報いるためにも途絶えさせてはいけないという気持ちで、10 数年前に発行をお引き受けしてからいつの間にか１５０余号を発行してきました。

改めて創刊当時のらしんばんを見ると物凄く熱い気持ちが感じられます。当時とは時代背景なども全く違うので一概には比較できませんが、何かの機会にもう一度昔を振りかえってみることも必要ではないでしょうか。

ところで、左の「らしんばん」の初期の表題ロゴですが、大野初代編集長によりますとゴム印で作られていたそうです。今号のらしんばんの表題はこのロゴを使ってみました！

自分としていつまで関われるかわかりませんが、次の方に引き継がれひとまず次の 100 号を目指していただきたいものです。　（編集担当）

← らしんばん、600 号・500 号・100 号と創刊号

カブ隊　山手地区クマー泊キャンプ

6月1日から2日の1泊2日、祐遊広場で山手地区からくまスカウトだけが一同に介する地区くまキャンプが行われました。

今回はスカウト総勢 18 人が参加し、非常に賑やかなキャンプとなりました。目黒 1 団からもくまスカウト 1 名が参加し、さらに組長を買って出てくれました。

途中参加のスカウトが多く、集合当初は数名しかいない状況でしたが頑張ってテントを建てて設営します。4 月の 1 泊キャンプの経験が活きている(はず)なので、難なくこなせました！

夕食はカレーライスを作りましたが、その前に食材争奪ゲームと題し、組対抗のゲームで成績の良かった組から欲しい食材を獲得できるプログラムを行いました。獲得した食材を使って調理を始め、初対面のスカウト同士ですがあっという間に溶け込み、スムーズに作業が進みました。

食後はお楽しみのキャンプファイアです。様々なソングに加え、組ごとにお題に即したスタンツも披露しました。

翌朝、朝食には災害時でもできる炊具要らずの朝食作りを体験しました。そして、撤営作業を行ったのち、午前プログラムは技能訓練として手旗の講習とゲームを行いました。

普段は後輩スカウトの面倒を見る必要のあるくまスカウトですが、同級生同士で気楽に楽しく過ごせるキャンプを満喫できたようです。また、参加した田邉スカウトは優秀スカウトとして表彰されました。おめでとう！！

ビーバー隊　君も今日からピザ屋さん

6月 9 日ビーバー隊はピザ作りをおこないました。最近隊長はパン作りにはまっていて、今回は簡単にできる「ピザ作り」をビーバー達に伝授します！

この日は体験者も2名参加でとっても賑やかでした。まずは小麦粉にドライイーストなどなど混ぜたものに温めた水を加えよ～く練ります。

沢山練るために袋を膨らませて、特別参加のお父さんのギターに合わせてフリフリしました。そしてできたタネを1時間寝かせます。

さて、寝かしている間にビーバー達はご近所へミニハイク。お寺の側の「谷戸前緑道」の細道を抜けて「大塚山公園」へ。ひと遊びしたところで次の「なべころざか公園」へ移動、お腹を空かせるために隊長と鬼ごっこ！鬼の隊長はついに誰もつかまえられませんでした(笑)

丁度1時間過ぎたところでお寺戻ります。 寝かしたタネは倍くらいに膨れていますのでこれを薄く延ばしてソースとチーズを乗せて、フライパンで焼くと･･･美味しそうなピザの出来上がり！！　なかなか本格的、街のピザ屋さんにも負けないかも？スカウトもお手伝いしてくれた父母の方々も大満足で今回はおしまい。大勢でワイワイ楽しい集会でした

育成会主催・チャリティーゴルフコンペ2019　報告

6月5日(水)PGM総成カントリークラブ(千葉県成田市)において恒例の「ボーイスカウト目黒 1 団チャリティーゴルフ･2019」が」おこなわれました。今年は天気にも恵まれ総勢 65 名の参加で盛会でした。

今年も多くのみなさまから賞品の提供を頂き、参加費や関係者御寄附などで 285,500 円、これに加えて祐天寺自治会から特別助成金として 100,000 円をいただきました。そこから参加賞や事務費を引いた 238,530 円が収益となりました。

この浄財につきましては、目黒区青少年活動並びにボーイスカウト活動ガールスカウト活動に参加している青少年への支援金として使わせていただく予定となっています。　　なお、次回は2020 年6月 3 日(水)開催予定です。

以上皆様へ報告させて頂きます。

カブ隊　もの作りに挑戦！

6 月 16 日隊集会、この日は様々なモノづくりに挑戦をしました。

まずは、来たる夏期舎営に向けた準備として、舎営で使うオリジナルの宝箱を作成します。木箱に塗装を行い、ステンシルシートを使って好きな文字を加えました。満足のいく出来栄えだったスカウトも、そうでないスカウトも両方いましたが、オリジナリティある作品ができました。

そのほかにも、ネッチリング作りや、「緊急時の寝床作り」ということでポンチョを使ったビバーク体験も行いました。

ボーイ隊　美化工作隊集会

6月9日隊集会。　今回の隊集会では刃物の手入れ、美化工作を中心に活動を行いました。美化工作ではタープ、立ちかまどを作成しました。班ごとに作成した立ちかまどは改善点がたくさん出てきました。

8 月の夏季野営で一週間保つような頑丈なものを作れるようにさらに力をつけてもらいたいものです。

<u>スカウトより</u>

- 最初作った美化工作から自分達で考えて補強を施し使えるものを作る事が出来た。
- 時間はかかったけどちゃんと出来て良かった。全員が結束法を覚えられたと思ったので良かった。

2級ハイキング

6月23日、2級章取得のための項目にある 10 キロ程度のハイキングの企画実施を今回 2 年目と 3 年目のスカウトが行ってきました。参加スカウトは楢舘、水口、蔵田、藤倉の4名です。

<u>スカウトより</u>

- 距離以外と長くて大変だった。林試の森の近くで道に迷ったけどルートに戻れた。
- 直前でルートが変わって計画を練り直す必要があったがその計画通りにやる事が出来た。

キャンプ下見

6月8日、山梨県小淵沢にて夏季野営の下見をしてきました。

野営地とハイキングコースを回ってきました！

当日は天気が変わりやすく、晴れたり雨が降ったりという天候でしたがしっかりと確認してくることができました。

第24回世界スカウトジャンボリー

第24回世界スカウトジャンボリーは、7月22日～8月2日アメリカ合衆国ウエストバージニア州にて開催されます。今回はカナダ・メキシコ・アメリカの3連盟協同開催で、テーマは「UNLOK A NEW WORLD」です。

目黒1団からは成澤ベンチャースカウトが運営サイドのIST（国際サービスチーム）として参加します。

6月30日に山手地区からの参加メンバーの壮行会が開催されました。

各隊夏期行事の予定

各隊長のことばは紙面の都合上かなりの改行を省略しております。読みにくいことをお詫びいたします。

いよいよ来月は各隊とも夏キャンプ！　日頃の訓練の成果を確認しながら仲間の絆、自然の美しさと脅威などキャンプの楽しさを満喫して、一回りも二回りも大きく成長して貰いたいものです。
キャンプの実施にあたっては各隊ともリーダーたちが大きな期待を持って臨んでいます。それらを各隊隊長がキャンプ計画書に「隊長のことば」として記載しておりますので、是非ご覧いただきたいと思います。

ビーバー隊は 8 月 17 日（土）～18 日（日）の一泊二日で群馬県みなかみ町の昨年も伺った農家キミちゃん家にいきます。ここで農村民泊を体験します。

隊長のことば　　ビーバースカウトへ

ことしも、ビーバーたいのキャンプは、ぐんまけんのみなかみ町へいきます。みんなできょうりょくして、たくさんのことを、たいけんしましょう！タケで、おちゃわんや、はしを作ったり、川へみずあそびにいったり、おんせんに入ったり、よるは、きれいなほしぞらをみて、ちょっとコワイきもだめしも…などなど、いろいろとけいかくをしています。
みんなでたのしむには、ビーバーたいのやくそくをまもりましょう。

カブ隊は 8 月 11 日（日）～14 日（水）の三泊四日で、山梨県南都留郡西湖に近い　民宿ふるさとで実施います。ことしのテーマ「日本一を目指す」の年間ストーリーの完結を目指します。

隊長のことば　　日本一

今年のカブたいのテーマを、みんなはおぼえているだろうか？そう「日本一」。そんなカブたいが今年の夏むかうのはやはり日本一の山、富士山のふもとだ。
ところで、よのなかにはいろいろな日本一が存在する。「日本一高い山」「日本一おおきな島」「日本一長い川」。これらはみんな聞いたことがあるだろうし、どの山、みずうみ、川のことかすぐにわかるだろう。
では「日本一ひくい山」「日本一小さな島」「日本一みじかい川」はどうだろう？なまえをぜんぶ言うことはできるだろうか？たいていの人は、しらべないとわからないだろう。
われわれがしらない「日本一」はいがいとたくさんある。「日本一ひくい山」なんてすごくも何ともないと思うかもしれない。でも高くてもひくくても、イチバンはイチバンだ。
まえおきが長くなってしまったが、このことが今年のテーマにつながる。　このしゃえいの間、みんなには1つのかだいをクリアしてもらいたい。「自分がなにかの日本一になる」　どんな小さなことでもかまわない。しゃえいを日本一楽しんだり、荷物を日本一せいとんにしたり。日本一きそく正しくせいかつしたり。自分のとくいなことでもいいし、あえてニガテなことにちょうせんしてもいい。とにかく、あの大きな富士山こそが、こんごきみたちのライバルだ。
日本一のだいせんぱいである、富士山にもまけない日本一をかならずゲットして帰ってきてほしい。

ボーイ隊は 8 月7日（水）～13日（火）の一週間、山梨県小淵沢でキャンプをおこないます。

隊長のことば　　野営は不便

一週間の野営生活は不便ばかりだ。蛇口がすごそこにある訳ではなく道 5 分ほど歩いて、くみに行かなければならない。電気はもちろん無いし、火も起こさないと無い。トイレは水洗どころか、穴を掘らないといけない。
雨が降ればビショビショになるし、洋服の着替えだってそんなにたくさんない。食事はテーブルに座っているだけでは、何も出てこないし食べたあとの片付けも自動ではない。　アレ取ってと言ったって、自分で取れと返ってくる。
では、なぜそんな事をするのか？日常生活は整った環境であたかも一人でも生きていけると勘違いしてしまう。便利な環境は、誰かが用意・準備してくれていることを忘れてしまう。長い野営生活は、班員はもちろん回りと協力しないと生きていけない。自分だけ何もしなくても、誰かがやってくれると思ったら大間違い。普段うるさいなぁと感じる声は聞こえず、全て自分が決める。
そんな不便な環境に「気づき」「工夫」して「改善」する。使いやすい調理台や食卓を美化工作として作るのもその一つだ。汚れた洋服を着替える、顔を洗う、手を洗う、歯を磨く野営生活だからと言ってやらなければ体調を崩す。キレイなトイレを維持する事も衛生を保ち、いわば自己管理の一環だ。どれも成長するための訓練だ。
この一週間、どんな工夫が見られるか楽しみだし他人を大切に想う気持ち、「思いやり」が倍増する事を期待しています。

各隊活動報告＆活動予定

	19年6月の活動		19年7月の予定	
BV	9日	ピザ作り＆ハイキング	7日	ハイキング・7団合同
CS	1～2日	地区クマー泊キャンプ 祐遊広場	7日	隊集会 舎営荷物点検
CS	16日	隊集会	28日	地区合同隊集会 大井ふ頭・ハゼ釣り
BS	9日	隊集会・美化工作	6～7日	一泊訓練
VS	23日	BS２級ハイキング		
RS		各隊奉仕		各隊奉仕